Phiméanakas やバプオン Baphuon の剣形のある思ひ切つた力のある土臺を這つてゐる、眩暈する樣な階段を攀ぢ登つて、終りに、城壁外で、タケオ Ta-Keo か更にはプノム・バケン Phnom-Bakeng もいゝが、其の頂に歩を運んでみよう。此の寺は人爲的な眞の小山上に築かれ、其の礎石上は金字形の五階になつてゐる。その上から眺むれば、足下に全景を展べてゐるアンコール・ヴトや、波立つた森の美事な景色が見渡される。森は彼方此方切開かれながらも、アンコール・トムまで延びてゐる。之等の建物は何れも充分に手入が出來てゐるのであるから、こゝでは其の驚異の裝飾について研究するだけで良いのである。

然し、同時に萬人の滿足を得るのは極めて至難である。恐く之等のよく手入の出來た建築を見ては、樹木と遺跡とが交錯してゐた以前、その光景は一層美はしかつた事を思つて、此の事業を遺憾とする人もあらうが、さりとて我々の後には廢墟の跡のみといふ樣な勝手も言へなからう。而して、將來に向つて保存し得た所を保存する爲に、考古學者が準備を整へて來つたのは恰も其の時を得たものとしてよからう。固より、アンコールの餘り修復された